

団長の心のものさし

レコーディング
と
ライブ



理事を出して貢献するも...

一瞬に賭ける!

前号でレコーディングのことに触れた。今回はライブについて書きたい。

.....
18日に県文大ホールで「第50回三重県合唱祭」が開かれた。コンクールに参加しないというおににとつて、三重県合唱連盟が主催する行事の中で唯一の参加事業になっている。毎年40団体程度の合唱団が参加する、一大イベントだ。

このような催し物であるがゆえの規制条件も多い。

まずは制限時間が入退場を入れて6分。これはかなり選曲しづらいタイムだ。次は、聴く人を増やすということでリハーサル後に客席で他団体の演奏を聴かなければならない。ここでコンディションを崩すしてしまうといった声もあるようだ。あとは、これはうたおにの独自性の問題だが、合唱をやっている仲間の前での演奏にもかかわらず、アウェー感が強い(笑)。合唱する人たちってこんな感じ?...やっぱりコンクールが中心なのかなあ。楽しいという空気感があまりない。楽しそうなことは取り入れられているのだけれど。心底楽しめない。流れ作業的に合唱団

という商品がベルトコンベアで流れてくるような...。合唱を楽しむとか、聴く人に楽しんでもらうといった姿勢があまり見られないことが残念である。

ベストな演奏の意味

たった6分という制限時間で何をどう伝えるのか?決められたシステムの中で、どうやってベストを目指すのか?

自分たちの演奏会であれば、ベストを目指すための条件や環境を整えることも可能だし必要だろう。しか

し、こうした寄り合い所帯でのイベント的な演奏においては、様々な要素をT.P.Oに合わせて受け入れざるを得ない。もしそれに同意できなければ参加しなければいいだけだ。

より良い条件を整備してベストな演奏を目指すことは準備としては必要だろう。議論を尽くせばいい。ただ、この種の話題でいつも疑問に思うことは、何が優れた環境で、何がベストな演奏なのだろうか?それこそ自己満足でしかないのではないだろうか?

その状況を楽しむ力が必要



プラカードにもかかつてのような盛り上がりはない

どんな条件や環境であれ、その空間で音楽を楽しむ姿勢がなければならぬ。たとえどんなに精緻な演奏が出来たとしても、それをベストな演奏だとはいえない。選曲や演奏方法も、その会の趣旨

うたおにの6月14日(月)の様子

- 練習内容
- The Beatitudes
 - Geistliches Lied Op.30
 - The Lord bless you and keep you

合唱祭も終わり、いよいよ9月の音楽会に向けての再スタートだ。その間、オペラやあるもとのジョイントプログラムについても顔を見せ始めるだろう。

いよいよ夏本番といったところだ。まだまだ時間はある、なんて悠長なことを言っていると、追いつかなくなるよ。伝えるための努力が出来なければ、演奏する意味なしだから。

や、会場の環境、聴き手の層に合わせて選べばいい。それも楽しみの一つだし、演奏の可能性を広げてくれるのだ。要は“心持”だ。

近年、ホール環境も格段に良くなり、どこでもそれなりの条件を満たすようになってきている。その半面、演奏者の贅沢感が蔓延し、演奏の出来不出来を外的要因に押し付ける傾向が顕著だ。

演奏は、特にライブ演奏は、こうした外的要因を受け入れ、その上で演奏者として“楽しむ”姿勢が不可欠だと痛感してる。